

函館市医療・介護連携推進協議会
多職種連携研修作業部会 第21回会議

日時：令和7年2月20日（木）19：00～

場所：函館市医師会病院 5階講堂

【次第】

1 開 会

2 議 事

○報告事項

1. 令和6年度 多職種連携研修計画 実施報告（資料1, 2, 3）
2. センターホームページ「コラム」の掲載について
3. 研修情報の一元化と提供について（資料4）

○協議事項

1. 令和7年度 多職種連携研修計画（案）（資料5）

3 その他

4 閉 会

【配付資料】

資料1：報告事項

資料2：令和6年度 多職種連携研修計画実績表

資料3：第9回 函館市医療・介護連携多職種研修会 分析・考察

資料4：ホームページ上で掲載した研修情報一覧（令和6年4月～令和7年2月）

資料5：令和7年度 多職種連携研修計画（案）

函館市医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修作業部会

第21回会議 出席者名簿

※★…部会長および副部会長 ○…幹事

(敬称略)

分野	所属団体	氏名	勤務先等
	公益社団法人 函館市医師会	○幹事 花輪 拓哉	函館市医療・介護連携支援センター
	一般社団法人 函館歯科医師会	川村 曜補 ※欠席	カワムラ歯科クリニック
	一般社団法人 函館薬剤師会	水越 英通	(株)はこだて調剤薬局昭和店
	公益社団法人 北海道看護協会 道南南支部	鹿角 悼司 ※欠席	特定医療法人 富田病院
	道南在宅ケア研究会	★副部会長 川口 篤也	医療法人道南勤労者医療協会 函館稜北病院
	函館地域医療連携実務者協議会	橋浦 大希	函館五稜郭病院
	一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会 南支部	★部会長 阿部 綾子	医療法人社団 函館脳神経外科病院
	北海道柔道整復師会函館ブロック	室田 多哉	室田整骨院
	函館鍼灸マッサージ師連絡協議会	益井 基	益井東洋治療院
介護	函館市居宅介護支援事業所連絡協議会	宮城 智美 ※欠席	居宅介護支援事業所 医療法人社団 函館脳神経外科病院
	函館市地域包括支援センター連絡協議会	京谷 佳子	函館市地域包括支援センター ゆのかわ
	函館市訪問リハビリテーション連絡協議会	山上 雄大	社会医療法人仁生会 訪問リハビリテーション西堀病院
	道南訪問看護ステーション連絡協議会	白川 直子	社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院 在宅療養支援室 訪問看護係
	道南地区老人福祉施設協議会	齋藤 禎史	特別養護老人ホーム シンフォニー

○報告事項

1. 令和6年度 多職種連携研修計画 進捗状況（資料2）

（1）相互理解の促進

①医療関係者向け研修

共 催：ほくと・ななえ 医療・介護連携支援センター

日時・場所・参加人数：

（ア）令和6年6月19日（水）17：30～18：30 参加人数：85名

函館脳神経外科病院

（イ）令和6年8月29日（木）17：30～18：30 参加人数：68名

函館中央病院

（ウ）令和7年2月12日（水）18：30～19：30 参加人数：37名

函館市医師会病院

テ ー マ：「退院後，施設でどのような生活をしているか知っていますか？」

対 象：函館市，北斗市，七飯町の医療・介護関係者

講 師：特別養護老人ホーム百楽園 主任相談員 高木 健太郎 様
サービス付き高齢者向け住宅 サンライズ函館 施設長 鈴木 文香 様

②介護関係者向け研修

共 催：ほくと・ななえ 医療・介護連携支援センター

日時・場所・参加人数：

（ア）令和6年6月13日（木）18：30～19：30 参加人数：120名

（イ）令和6年8月30日（金）18：30～19：30 参加人数：70名

（ア），（イ）共に函館競輪場

（ウ）令和7年2月18日（火）19：00～20：00 参加人数：29名

北斗市農業振興センター

テ ー マ：「急性期病院の事情について ～思いやりのある連携～」

対 象：函館市，北斗市，七飯町の医療・介護関係者

講 師：市立函館病院 入退院支援課 入退院支援係長 熊倉 慎治 様
函館脳神経外科病院 医療相談室 主任 阿部 綾子 様

③オープンカンファレンス

（ア）共 催：函館市医師会病院

日 時：令和6年6月27日（木）18：30～19：45

場 所：函館市医師会病院

対 象：函館市，北斗市，七飯町の医療・介護関係者

進 行 役：函館稜北病院 副院長 総合診療科科長 川口 篤也 先生

登 壇 者：医師・看護師・言語聴覚士・医療相談員・施設相談員

内 容：特養から2次救急病院へ搬送された高齢者の事例
参加人数：111名

(イ) 共 催：函館中央病院
日 時：令和6年11月7日(木) 18:30~19:45
場 所：函館中央病院
対 象：函館市、北斗市、七飯町の医療・介護関係者
進 行 役：函館稜北病院 副院長 総合診療科科長 川口 篤也 先生
登 壇 者：看護師・入退院支援看護師・訪問看護師・セラピスト
内 容：非がん患者の終末期における退院支援の事例～現在の介護保険制度に
おける限界～
参加人数：112名

(ウ) 共 催：高橋病院
日 時：令和7年3月6日(木) 18:30~19:45 ※予定
場 所：高橋病院
対 象：函館市、北斗市、七飯町の医療・介護関係者
進 行 役：函館稜北病院 副院長 総合診療科科長 川口 篤也 先生
登 壇 者：医師・看護師・医療相談員・施設相談員
内 容：がん終末期患者との関わり～診断から看取りまでの7週間～
定 員：80名

④研修会等コーディネート

各関係団体窓口一覧の更新 令和6年8月16日(金) 更新内容掲載済み

(2) 連携強化

①看取り&連携強化

第9回函館市医療・介護連携多職種研修会

日 時：令和6年10月19日(土) 14:00~17:00

場 所：函館国際ホテル

テ ー マ：地域でつなげようACPの輪 ~この地域でのACP連携を目指して~

目 的：その方らしい生き方を実現していくため、加齢や疾病による影響から心身の状態が変化していく本人の不安や葛藤などに寄り添い、もしもの時に本人の想いを見逃さないように、支援に関わる一人ひとりが意識していけることを目的とする。

対 象：函館市・北斗市・七飯町の医療・介護関係者

座 長：北美原クリニック 岡田 晋吾 先生

内 容：・講演

【ACPとは】

函館稜北病院 副院長 総合診療科科長 川口 篤也 先生

【もしもノートについて】

市立函館病院 緩和ケア科科長 山崎 裕 先生

【はこだて医療・介護連携サマリーと併せた活用法・事例】

訪問看護ステーションフレンズ 統括所長 保坂 明美 様

・グループワーク

(進行) 函館市地域包括支援センターたかおか 施設長 松野 陽 様

・意見交換・質疑応答

(座長) 北美原クリニック 岡田 晋吾 先生

参加人数：232名

(グループワーク参加者 141名, 聴講のみ 67名, 関係者 24名)

②入退院支援

(ア) 入退院支援連携強化研修会 (ガイド編)

日 時：令和6年11月15日(金) 18:30~20:00

場 所：函館市医師会病院

テ ー マ：関わっているその人のイメージの共有, スレているかも?

～病院・在宅間のズレないイメージの情報共有とは～

内 容：①イメージのズレを考える

発表者～北海道 MSW 協会南支部 医療相談員 岩城 朋美 様

②グループワーク

発表を受けて, 普段の日常業務でのイメージのズレはなぜ起こるのか?
ズレる事での困り事についてを話し合い, 今後に向けてグループ内でディスカッションする。

対 象：医療関係 (MSW, 入退院支援看護師, 病棟看護師, リハビリスタッフなど)
在宅関係 (包括職員, 居宅ケアマネジャー, 訪問看護師, リハビリスタッフなど)
施設関係 (施設相談員, 施設ケアマネジャー, 介護職員, リハビリスタッフなど)
薬剤師, 歯科衛生士等

参加人数：59名

(イ) 入退院支援連携強化研修会 (サマリー編)

○令和5年度開催 医療・介護連携 ID-Link 活用推進研修会の動画公開

共 催：道南 Medlka, 函館市医療・介護連携推進協議会 (情報共有ツール作業部会)

公開期間：令和6年12月16日(月)～令和7年1月31日(金)

開催方法：函館市医療・介護連携支援センターホームページ上で動画を公開

テ ー マ：当院での ID-Link の活用と今後の展望について

内 容：[講演] 函館稜北病院 副院長 総合診療科科長 川口 篤也 先生

[活用実践発表]

- ・医療関係者から「施設との ID-Link 連携について」

発表者：高橋病院 訪問診療室 室長 山田 佳世 様

- ・介護関係者から「在宅支援チーム内での ID-Link 連携について」

発表者：訪問看護ステーションフレンズ 統括所長 保坂 明美 様

申込人数・閲覧件数・閲覧人数：

	申込人数	閲覧件数	閲覧人数
函館市	57	47	66
ほくと・ななえ	10	8	14
その他（松前）	1	3	9
計	68	58	89

○令和6年度 医療・介護連携 ID-Link 活用推進研修会

共 催：道南 Medlka, 函館市医療・介護連携推進協議会（情報共有ツール作業部会）

日 時：令和7年3月1日（土）14：00～16：00 ※予定

場 所：市立函館病院 2階講堂

テ ー マ：「地域連携システムを活用した情報共有のあり方

『～道南地域に求められる医療・介護DX～』

開催方法：集合開催

内 容：[講演] 社会医療法人高橋病院 理事長・病院長 高橋 肇 先生

定 員：150名

○宇都宮宏子先生 in 函館

共 催：函館中央病院

日 時：令和7年2月15日（土）13：00～15：00

場 所：函館中央病院

テ ー マ：「つむぎ, つなぎ, 叶える地域連携力！

～この町で“暮らし”，そして“生ききる”～」

内 容：在宅ケア移行支援研究所

宇都宮宏子オフィス 宇都宮 宏子 先生

地域での連携をかんがえる

「はこだて医療・介護連携サマリーについて」

函館市医療・介護連携推進協議会 情報共有ツール作業部会 部会長

函館中央病院 事務次長 亀谷 博志 様

「サマリーを活用した連携事例について」

函館市医療・介護連携推進協議会 情報共有ツール作業部会

訪問看護ステーションフレンズ 所長 保坂 明美 様
函館市医療・介護連携推進協議会 退院支援分科会
函館中央病院 総合医療支援センター入退院支援室
退院支援看護師 奥山 ちどり 様

対 象：病院，クリニック，訪問看護ステーション，居宅介護支援事業所，
包括支援センター

参加人数：80名

④急変時対応

「令和6年函館市医療・介護連携『急変時対応研修会』」

日 時：令和7年3月10日（月）18：30～20：00 ※予定

場 所：函館市民会館 大会議室

テ ー マ：急変時対応研修会 ～本人の思いに寄り添いながら～

座 長：函館中央病院 事務次長 亀谷 博志 様

パネリスト：おうちクリニック 院長 横倉 基 先生

小規模多機能ホームらしさ七重浜 管理者 波並 孝 様

居宅介護支援事業所いろは 管理者 吉田 夏美 様

定 員：200名

(3) 多職種連携の専門性の向上

東央部第2圏域ケアマネ懇談会

日 時：令和6年7月17日（水）

場 所：地域包括支援センターたかおか

テ ー マ：「地域みんなでご本人の思いをつなぐ ～ACPツールもしもノートはこ
だて人生会議説明書～」

参加人数：13名

(4) 人材育成

・各医療・介護系の学校へセンター主催研修会の案内配布を都度実施。

（令和6年10月19日（土）に開催した「第9回函館市医療・介護連携多職種研
修会」に学生2名参加）

2. センターホームページ「コラム」の掲載について

○「医療・介護連携マップで検索できる各機関の機能」について

2～3ヶ月毎にコラム掲載中

・7月4日掲載「通所介護」

デイサービスセンターながだい 代表 工藤 晃士 様

・9月26日掲載「小規模多機能型居宅介護」

小規模多機能ホームアニー 計画作成担当者 渡部 良仁 様

- 11月26日掲載「訪問リハビリテーション」

介護老人保健施設ケンゆのかわ 理学療法係長 吉荒 龍哉 様

- 3月掲載予定「サービス付き高齢者向け住宅」

地域密着型特定施設ケアホームくうら 施設長 関 雅之 様

【令和6年度 多職種連携研修計画実績表】

目的（テーマ）および内容	形式				主催/共催	定員	参加者数	時期（実施日時）
	規模（会場）	形態	対象者	レベル				
(1) 相互理解の促進								
①医療関係者向け研修 「退院後、施設でどのような生活をしているか知っていますか？」	中規模 (函館脳神経外科病院) (函館中央病院) (函館市医師会病院)	座学講義	医療・介護関係者	初級～中級	ほ・なセンター と共催	80名程度 120名程度 80名程度	85名 68名 37名	6月19日(水)(終了) 8月29日(木)(終了) R7年2月12日(水)(終了)
②介護関係者向け研修 「急性期病院の事情について～思いやりのある連携～」	中規模 (函館競輪場) (北斗市農業振興センター)	座学講義	医療・介護関係者	初級～中級	ほ・なセンター と共催	100名程度	120名 70名 29名	6月13日(木)(終了) 8月30日(金)(終了) R7年2月18日(火)(終了)
③オープンカンファレンス	中規模 (函館市医師会病院) (函館中央病院) (高橋病院)	対話体験 (事例報告)	医療・介護関係者	初級～上級	開催病院と共催	100名程度 120名程度 80名程度	111名 112名	6月27日(木)(終了) 11月7日(木)(終了) R7年3月6日(木)予定
④研修会等コーディネーター 各関係団体窓口一覧の内容変更の有無を確認	—	—	—	—		—		8月16日(金) 更新済み
(2) 連携強化								
②看取り&連携強化 ・第9回函館市医療・介護連携多職種研修会 「『地域でつなげようACPの輪』～この地域でのACP連携を目指して～」	大規模 (国際ホテル)	対話体験型 (シンポジウム・GW)	医療・介護関係者	中級～上級	ほ・なセンター と共催	300名程度	232名	10月19日(土)(終了)
③入退院支援 (ア)「入退院支援連携強化研修会(ガイド編)」(退院支援分科会主催) 「関わっているその人のイメージ、スれているかも？ ～病院・在宅・施設間のスレないイメージの情報共有とは～」	小規模 (函館市医師会病院)	対話体験型 (GW)	医療・介護関係者	中級～上級	主催	50名程度	59名	11月15日(金)(終了)
(イ)「入退院支援連携強化研修会(サマリー編)」 「令和5年度開催『医療・介護連携ID-Link活用推進研修会』」(動画公開)	当センター ホームページ上	動画公開	医療・介護関係者	中級～上級	道南Medlkaと共催	なし	89名 (閲覧人数)	12月16日～ R7年1月31日
「令和6年度 医療・介護連携ID-Link活用推進研修会」 ※各団体・機関との共催、退院支援分科会・情報共有ツール作業部会との協働	中規模 (市立函館病院)	対話体験型 (シンポジウム)	医療・介護関係者	中級～上級	ほ・なセンターほか 複数団体との共催	150名程度		R7年3月1日(土)予定
「宇都宮宏子先生 in 函館 つむぎ、つなぎ、叶える地域連携力！ ～この町で“暮らし”，そして“生ききる”～」	中規模 (函館中央病院)	対話体験型 (シンポジウム・GW)	医療・介護関係者	中級～上級	函館中央病院 と共催	120名程度	80名	R7年2月15日(土)(終了)
④急変時対応(急変時対応分科会実務者会議主催) 「令和6年函館市医療・介護連携『急変時対応研修会』」	中規模 (函館市民会館)	対話体験型 (シンポジウム)	医療・介護関係者	中級～上級	ほ・なセンター と共催	200名程度		R7年3月10日(月)予定
(3) 多職種連携の専門性の向上								
東央部第2圏域ケアマネ懇談会 「地域みんなでご本人の思いをつなぐ ～ACPツールもしもノートはこたて人生会議説明書～」	小規模 (包括支援センター たかおか)	講師：センター職員	介護関係者	設定なし	出張講座	20名程度	13名	7月17日(水)(終了)
(4) 人材育成								
センター主催研修会への見学参加 ※各医療・介護系の学校への案内	随時	見学・座学講義	医療・介護学生 (教員)	未経験者			数名	随時

第9回 函館市医療・介護連携多職種研修会 分析・考察

開催方法：集合開催

テ ー マ：「地域でつなげようACPの輪～この地域でのACP連携を目指して～」

目 的：その方らしい生き方を実現していくため、加齢や疾病による影響から心身の状態が変化していく本人の不安や葛藤などに寄り添い、もしもの時に本人の想いを見逃さないように、支援に関わる一人ひとりが意識していけることを目的とする。

目 標：・もしもの時のために本人の想いをどのようなタイミングや方法で聞き取りすると良いのかを考える。
・もしもノートを活用しながらACPを行う際の留意点などを知る。
・本人の想いを叶える支援の実現を目指し、医療・介護関係者が情報共有していく必要性を考える。

【アンケート内の意見】※一部抜粋

<医師>

ACPの実践という観点で学ぶことが多かったです。

<歯科医師>

初参加になりますので、日頃在宅訪問診療や介護施設の往診などの際に、患者さんや入所者さんへの対応の仕方を、ある一定の基準を定めて話ができる事を、マニュアルに沿いながら学べた事が非常に役にたてたと思います。

<薬剤師>

自ら、もしもノートに記載する事で今後の患者との接し方、考え方など再考する事ができ、更に他の職種の方々の意見を聞く事で多角的視野を学ぶ事ができた。

<看護師>

ACPの本来の意味について改めて学び確認することができました。日頃の看護では、患者対応でご本人の意志とご家族の意志の相違があり困惑することもあります。あくまでもその時々条件に合わせてその都度考えることが重要かと思いました。人がどう生きたいかの思いは変わるものだから。

<相談員>

一機関だけでACPを完結するのは難しい。場面、場面で関わった専門職が寄り添い繋げていくことが大切。ACPは非常に良いテーマだったと思います。

<ケアマネジャー>

独居身寄りなし高齢者が増加していくなかで、ケアマネジャーがご本人の想いを繋ぐ立場になる可能性が今後益々あるだろうと考えており、ACPについての正しい理解が必要だと考えている。

<保健師>

ACP≠DNARではないこと、常に思い、意志は変化すること、変化してもよいことを再確認できた。その為に多職種連携が重要。家族にはなせないことが沢山あること、専門職として中立な立場で本人、家族に寄り添うことの大切さを学んだ。

<介護職員>

ACPの考え方、ひき出し方、自分事として考えること、もしもノート等についてグループワークを通して活発な議論ができ、色々な捉え方があることも知れたので有意義な時間となりました。利用者様含めご家族や支援者さん、自分や自分の家族ともっと話をしたいなと思いました。研修を活かせるように日々暮らしていきたいと思います。

<栄養士>

栄養士という職種で、できるだけ口から食事を召し上がっていただきたいと常日頃から感じています。ただ、それを望まない利用者様がられることも事実、介助が必要な方が多くなれば現場も手が回らないため、胃瘻などの人が入って来てくれたら…などの声を聞くこともあります。利用者様や家族に寄り添うとは？と、介護現場に入ってみて自問することも多くなりました。病院のように疾病治癒のための食事でもなく、病気にかからないための予防という食事とも少し違う、ある意味特殊な環境の中で何を目的として専門性を活かすのか、これからもいろいろと学んで現場で迷いながら考えていこうと感じました。この度は貴重な気づき、そしてお話しありがとうございました。

<学生>

ACPは授業で簡単に説明を受けていただけなので、今回をきっかけに深く学ぶことができました。また、「もしもノート」では実際に活用できる機会が少ないため、家族の中で話し合える時間を作って考えてみたいと思います。

【分析・考察】

研修会の参加人数は、グループワーク席（141名）と聴講席（67名）で、関係者を含めると総数232名であった。

昨年度は、新型コロナが5類になって間もないことから参加人数を縮小することを考えてグループワーク席のみとした。しかし、聴講席を希望する方もいることから、今年度はコロナ前の開催方法に戻している。グループワークへの参加には抵抗があっても、聴講だけなら参加したいという方もいるため、聴講席を設けたことは良かったのではないかと思

われる。また、聴講席の方へグループワークへの参加の声掛けをしたところ、数名が参加され、「とても楽しかったので、初めからグループワーク席を希望するとよかった」という声もあったことから、次年度も聴講席の方への声掛けを行うとよいのではないかと考える。

アンケートは、232名の内103名からの回収であった。回答方法はアンケート記入用紙に記入した方が69名、Google フォームで回答した方が34名だった。次年度も今年度同様に好きな方法を選んで回答してもらおうことを考えている。

図2の研修テーマへの意見として、よかったが102名、未回答は1名だったが、この未回答の方からのご意見はなかった。

アンケート内の意見から、「日頃の看護では、患者対応でご本人の意志とご家族の意志の相違があり困惑することもあります。あくまでもその時々条件に合わせてその都度考えることが重要かと思いました」、「ACPの考え方、引き出し方、自分事として考えること、もしもノート等についてグループワークを通して活発な議論ができ、色んな捉え方があることも知れたので有意義な時間となりました」、「グループワークにより、より細かな見解にふれることが出来た」などのご意見や感想があったことから、本研修の3つの目標は、上記のアンケート記入内容から達成できたのではないかとと思われる。

図3の今後希望する研修については、アンケートから「医療・介護の連携に関する内容」を希望する方が多く、その内容としては、「その方が希望する場所、どこでも看取ることが可能になるような体制作りについて。病院、施設、在宅医療、介護など、地域および所属場所で温度差があるような気がします。医療用麻薬、CV ポートの管理が困難で難しいなど。制度上の問題、マンパワーなど、様々な課題がある背景があると思いますので、具体的に地域で改善に向けての取り組みについて検討したいと思いました」といったご意見もあり、日々の業務の中で利用者（患者）の支援を行っていく中で、このような場面に遭遇する頻度が増えているのではないかと考えている。

図1 【参加者（アンケート回答者）の職種】

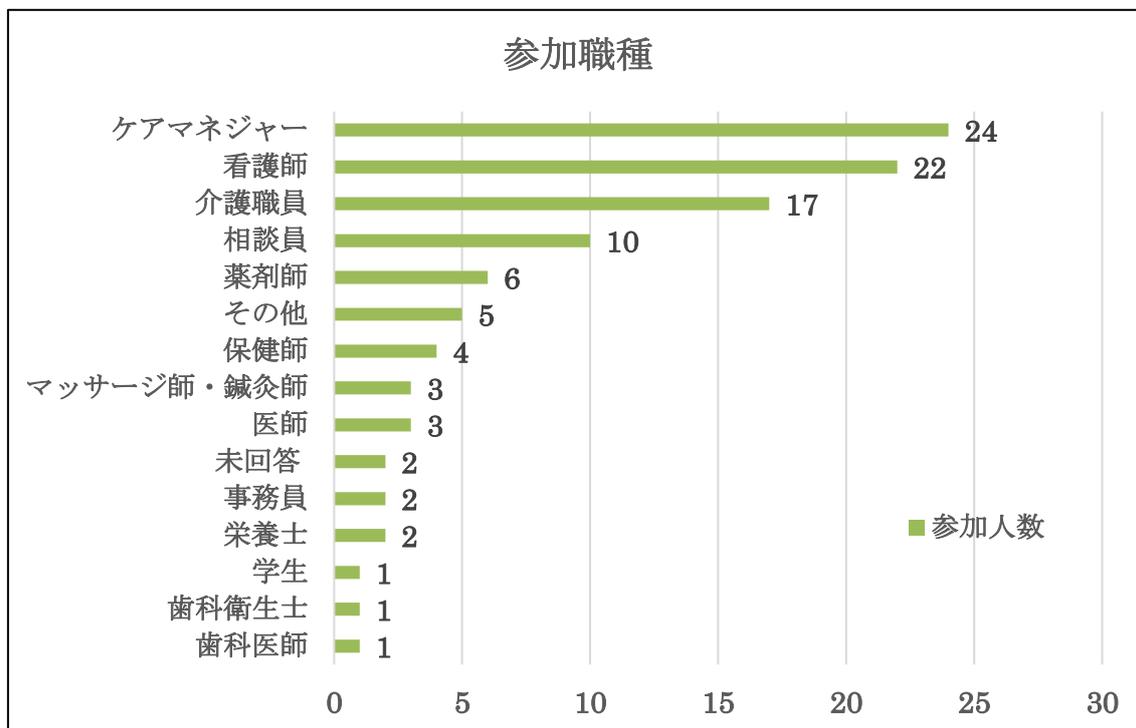


図2 【研修テーマへの意見】

よかった	102名	99.0%
どちらともいえない	0名	0.0%
よくなかった	0名	0.0%
未回答	1名	1.0%

図3 【希望する研修】

医療・介護の連携に関する内容	8件
看取り・緩和ケアに関する内容	5件
多職種でのグループワーク、事例検討	4件
ACPに関わる内容	3件
意思決定支援に関する内容	2件
適切な情報共有の仕方（はこだて医療・介護連携サマリー使用）	2件
医療・介護トリプル改定のその後の市内の状況	1件
病院の医師が参加できるもの	1件

ホームページ上で掲載した研修情報一覧（令和6年4月～令和7年2月）

月	研修名称（団体名）	件数
4月		0件
5月		0件
6月	令和6年度第1回講演会 「総合診療医に聞きたいあれこれ ～地域医療の中でわたしたちができること～」R6年6月22日開催 (函館鍼灸マッサージ師連絡協議会主催)	3件
	「函館市医師会 在宅医療医会 令和6年度総会および第4回研修会」R6年7月24日開催 (函館市医師会在宅医療医会主催)	
	「フェムテックを学ぼう」R6年7月24日開催 (北海道柔道整復師会 函館ブロック主催)	
7月	2024年度 保健師職能集会（道南南支部） 「ひきこもり状態にある方への支援の実際」R6年8月31日開催 (北海道看護協会道南南支部主催)	4件
	第27回道南摂食嚥下研修会 「『美味しくご飯が食べたい』～自分で食べて頂くための取り組み～」 R6年7月30日開催 (道南摂食嚥下研究会主催)	
	精神疾患を抱える方の家族のための第1回家族支援ネットワーク学習会 「家族のコミュニケーションを考える」R6年8月3日開催 (北海道精神保健福祉士協会道南ブロック主催)	
	「令和6年度 在宅医療・介護連携に関する意見交換会」R6年9月7日開催 (北海道渡島総合振興局保健環境部保健行政室（渡島保健所）主催)	
8月	こども子育て支援室3周年記念講演会 「うそをつく、文句ばかり言う、暴言・暴力、怠惰・無気力～トラウマの視点で子どもたちを 捉えなおし、あたたかい地域をつくろう～」R6年9月5日開催 (函館中央病院 総合医療支援センター こども子育て支援室主催)	4件
	道南在宅ケア研究会 スピンオフ企画研修会 「セルフケア革命-あなたの心と体を守る実践法-」R6年9月13日開催 (道南在宅ケア研究会主催)	
	「函館緩和ケアセミナー」R6年9月20日開催 (函館五稜郭病院緩和ケアチーム主催)	
	第10回ICNU北海道支部道南ブロック研修会 「『すぐそこにある災害』～生きる術をここ道南から考える～」R6年11月2日開催 (日本感染管理ネットワーク北海道支部主催)	
9月	令和6年度 第2回研修会 「ぜひ知ってほしい！認知症に対するリハビリテーション」R6年9月28日開催 (函館市訪問リハビリテーション連絡協議会主催)	5件
	であい友の会道南地区連絡会（脊髄小脳変性症・多系統萎縮症）医療講演会 「小脳がこわれる」R6年11月30日開催 (であい友の会道南地区連絡会主催)	
	第54回 道南地区老人福祉施設職員研究大会 「道南の絆を取り戻す！」R6年11月18日～19日開催 (道南地区老人福祉施設協議会主催)	

	「令和6年度 函館歯科病診連携懇話会第一回定例会」R6年10月9日開催 (函館病診連携懇話会主催)	
	「2024年度南渡島地域包括緩和ケアネットワーク 会員総会並びに第19回定例会」R6年10月24日開催 (南渡島地域包括緩和ケアネットワーク主催)	
10月	2024年度 三団体合同研修会 「権利擁護について考える ～令和6年度改正精神保健福祉法を通じて～」R6年11月2日開催 (北海道医療ソーシャルワーカー協会南支部, 北海道精神保健福祉士協会道南ブロック, 北海道社会福祉士会道南地区支部主催)	5件
	「令和6年度 成年後見セミナー ～知っておきたい制度の基本と後見人の活動～」R6年11月12日開催 (函館市成年後見センター主催)	
	「令和6年度 多職種合同研修」R6年11月16日開催 (北海道渡島総合振興局保健環境部保健行政室主催)	
	道南在宅ケア研究会2024年度 第57回定例会 「災害に強い地域を目指そう ～能登半島地震の被災地から学ぶ 私たちにできる事～」R6年9月13日開催 (道南在宅ケア研究会主催)	
	明治国際医療大学たには会北海道東北支部学術集会 「病期・病態を考慮した顔面神経麻痺への鍼灸治療の実態」R6年11月23日 (函館鍼灸マッサージ師連絡協議会主催)	
11月	第28回 道南摂食嚥下研究会 「窒息を防ぐ取り組みを共有しよう！」R6年12月10日開催 (道南摂食嚥下研究会主催)	4件
	地域医療支援病院講演会 「感染管理を大切にする皆様への応援メッセージ」R6年11月29日開催 (函館市医師会病院主催)	
	第2回 口腔衛生管理強化のための研修会 「オーラルフレイルの重症化を防ぐための口腔管理体制」R7年2月7日開催 (北海道歯科医師会 在宅歯科医療連携室主催)	
	七飯町成年後見制度研修会 「身寄りなし問題から考える権利擁護支援」R6年12月19日開催 (七飯町役場主催)	
12月	函館鍼灸マッサージ師連絡協議会 新年交礼会講演会 「医はき師から伝えたい 鍼灸・鍼灸師との関わり方」R7年1月25日開催 (函館鍼灸マッサージ師連絡協議会主催)	1件
1月	七飯町若年性認知症の当事者を支える研修会 「若年性認知症本人・家族のこれまでとこれから」R7年2月14日開催 (NPO法人北海道若年認知症の人と家族の会主催)	
	令和6年度 第2回家族支援ネットワーク学習会 「診察で自分の思いを伝えよう」R7年2月1日開催 (北海道精神保健福祉士協会道南ブロック主催)	
	令和6年度 函館市難病事例検討会(学習会) 「難病と認知機能障がいを伴う患者を支える支援の輪」R7年2月6日開催 (市立函館保健所保健予防課主催)	
	令和6年度 歯・口腔に関わる在宅療養支援サポート研修会 「口腔ケア難症例への対応 — 特に開口拒否について —」R7年3月14日開催 (道南圏域在宅歯科医療連携室主催)	

	<p>函館市委託事業：介護人材確保・育成促進事業実施業務職員向けセミナー 「離職防止・人材不足解消セミナー」R7年2月13日開催 (キャリアバンク株式会社 函館支店主催)</p> <p>函館市委託事業：介護人材確保・育成促進事業実施業務職員向けセミナー 「目指せ！介護支援専門員中の介護支援専門員～君のケアマネジメントに根拠はあるか～ 『人生会議・ターミナルケアマネジメント』」R7年2月17日開催 (キャリアバンク株式会社 函館支店主催)</p> <p>函館市委託事業：介護人材確保・育成促進事業実施業務職員向けセミナー 「介護事業に従事する看護職員の役割」R7年2月18日開催 (キャリアバンク株式会社 函館支店主催)</p> <p>函館市委託事業：介護人材確保・育成促進事業実施業務職員向けセミナー 「自分も他人もまもるため『セルフケア・ストレスケア』 ～心も体も健康に～」R7年2月25日開催 (キャリアバンク株式会社 函館支店主催)</p>	8件
2月	<p>第20回 MOPN定例会 「心不全患者の緩和ケア」R7年3月17日開催 (南渡島地域包括緩和ケアネットワーク主催)</p> <p>「函館市訪問リハビリテーション連絡協議会 函館市居宅介護支援事業所連絡協議会 令和6年度合同研修会」R7年3月14日開催 (函館市訪問リハビリテーション連絡協議会, 函館市居宅介護支援事業所連絡協議会主催)</p>	2件
合 計		36件

(その他)

函館市医療・介護連携支援センター主催	1件
ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター主催	2件
各団体との共催	6件
函館市医療・介護連携支援センター, ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター共催	9件

令和7年度 多職種連携研修計画（案）

(1) 相互理解の促進

①医療・介護関係者向け研修

目 的：「相互理解」というテーマで、医療関係者には介護側の事情を介護関係者に医療側の事情を知っていただく機会とし、お互いの距離や隔たりを縮め、顔の見える関係の中で更に連携を高めることを目的

a. 医療関係者向け研修

目 標：・退院後のご本人がこういった環境でどのような生活をしているかを知ること、退院後の生活のイメージを深めることができる
・イメージを深めることで、病院での受け入れ時の対応や情報整理、退院支援時の連携力の向上となる

テ ー マ：(仮) 退院後、施設でこんな生活をしています
～介護老人保健施設、グループホーム編～

講 師：依頼する施設の看護師 or 相談員又は施設 CM

研修時間：1 時間（15～20 分×●名、質疑応答）

内 容：○介護老人保健施設

- ①施設の紹介（配置職員の紹介など）
- ②利用者の視点で施設の 1 日の流れ
- ③施設でできるケアについて（施設で行っているリハビリや医療処置について等）
例）・在宅復帰に向けて施設内でのリハビリについて（器具を使ってのリハビリや生活リハビリ等）
・医療ニーズがある方への対応
- ④退院時の情報共有の必要性について
例）食形態等病院からの情報によって、退院後の生活で工夫をしている等
- ⑤事例紹介
例）入所後から在宅復帰までの様子、本人が在宅生活で臨んでいることをどこまで共有し実施しているか等
- ⑥介護老人保健施設の事情について
- ⑦介護老人保健施設の強みについて

○グループホーム

- ①施設の紹介（配置職員の紹介など）
- ②利用者の視点で施設の 1 日の流れ
- ③施設でできるケアについて（施設で行っている医療処置について等）
例）施設では安全に配慮しつつ、施設内の移動も生活リハビリの一環として行っている等
- ④退院時の情報共有の必要性について
例）食形態等病院からの情報によって、退院後の生活で工夫をしている等
- ⑤事例紹介
例）・退院後から現在までの様子等（退院後刻み食から常食に戻した経緯、歩行

器を使っていたが、日常生活を送るうちに杖歩行又は自立歩行になった等)

- ・退院時に病院からグループホームに入居したケースかグループホームから入退院したケース

⑥グループホームの事情について

⑦グループホームの強みについて

開催方法：集合開催（キャラバン方式 全3回実施予定）

- ・1回目は、五稜郭病院
- ・2回目は、函館医療センター
- ・3回目は、医師会病院

開始時間は、1, 2回目は、17:30~18:30（予定）

3回目、18:30~19:30（予定）

時 期：医療向け研修も介護向け研修も5月、8月、年明けの2月を予定

○講師依頼

- ・介護老人保健施設→道南地区老人保健施設事務長連絡会
- ・グループホーム→南北海道グループホーム協会

上記の団体にそれぞれ講師依頼予定。

b. 介護関係者向け研修

- 目 標：・介護関係者に、医療機関の病床機能や対象となる患者像、入院可能期間の違い、役割等を理解してもらうことで、スムーズな連携につなげることができる。
- ・病院の中で行われている入退院支援の流れなどを知ること、自分たちに行える必要な連携を考えることができる。

テ ー マ：(仮) 回復期機能をもった病床のある病院の事情について
～思いやりのある連携～

講 師：回復期機能をもった病床のある病院の医療相談員

研修時間：1時間1時間（15~20分×●名、質疑応答）

- 内 容：①回復期機能をもった病床（回復期リハビリ病棟及び地域包括ケア病棟）で実施されている役割や要件について（入院期間の違いなど）
- ②病院側の事情について（在宅復帰率や加算、減算要件など）
 - ③在宅復帰、施設退院に向けた介護側との連携、退院支援の流れ
 - ④入退院時の情報共有の必要性（入退院時加算などを含めた話）
 - ⑤患者さんの状況や疾患、予後により病床の選択が変わること、回復状況による退院先の選択肢について

開催方法：集合開催（1, 3回目は函館市、2回目は北斗市又は七飯町で実施予定）

時 期：医療向け研修も介護向け研修も5月、8月、年明けの2月を予定

○講師依頼

回復期リハビリ病棟、地域包括ケア病棟のある病院で2つの病床機能を持った病院へ依頼予定。

②オープンカンファレンス（年度中に検討）

③研修会等コーディネート

各関係団体へ連絡・確認：6月に確認書類 配布

*医療・介護各関係団体窓口一覧の内容の確認，更新

（2）連携強化

①第10回函館市医療・介護連携多職種研修会

（ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター共催）

日 時：令和7年10月18日（土）14時～17時

場 所：函館国際ホテル

方 法：集合開催

形 態：講演，グループワーク

対 象 者：函館市・北斗市・七飯町の医療・介護関連従事者

目 的：在宅生活の支援を検討する上で弊害となっている地域の課題（壁）を多職種で出し合い共有したうえで，本人の想いを叶えるチーム支援力の向上，在宅生活の限界点を引き上げる可能性について共に考える。

目 標：・在宅支援の現状と課題を把握した上で，互いが取り組んでいることや理想へ向かうためのイメージを共有できる。

・理想のチーム支援を実現するために，どのような取り組みを進めるとよいのかを考える。

・上記を踏まえ，明日から自分たちができることを考える。

テ ー マ：（仮）病院・在宅・施設の立場から考える

～在宅生活ムリだよねの壁を越えてみませんか？～

講 師：座長：川口先生

講師：未定

病院関係者：医師，看護師（退院支援看護師，MSW）など

在宅・施設関係者：居宅ケアマネジャー，施設（管理者・相談員），訪問看護師など

内 容：○講演内容

・支援者側が在宅生活ムリだよねと感じる壁（地域の現状や課題など）とは

・各専門職が在宅生活ムリだよねの壁を越えるために日々実施していること

・本人の想いを叶えるチーム支援力の更なる向上，在宅生活の限界点を引き上げていくためにできること

○グループワーク

○意見交換，質疑応答

②看取り

函館市医療・介護連携「在宅看取り研修会」

※6連協との共催にて開催を検討

③入退院支援

「入退院支援連携強化研修会（ガイド編）」（退院支援分科会主催）

「入退院支援連携強化研修会（サマリー編）」（情報共有ツール作業部会主催）

※各部会・分科会にて開催検討

④急変時対応（急変時対応分科会実務者会議主催）

※実務者会議にて検討

（3）多職種連携の専門性の向上

○函館市における多職種連携への理解の促進

・出張講座メニューの追加・更新及び各関係団体へ周知・案内の継続

（4）人材育成

○センター主催研修会への見学参加

・市内の医療系・福祉系の教育機関に研修案内・出前講座を継続する

・出前講座メニューの追加・更新及び各教育機関への周知・案内の継続